

平成28年7月26日

**日清製粉グループ 第1四半期連結決算、通期連結業績予想****[平成29年3月期第1四半期連結決算]**

**売上高** 1,359億23百万円 (前期比 97.4%)  
**経常利益** 72億27百万円 (前期比104.3%)

(株)日清製粉グループ本社(社長:大枝 宏之)の平成29年3月期第1四半期連結累計期間につきましては、緩やかな景気回復の動きが見られていたものの、中国をはじめとする新興国の経済減速や英国のEU離脱問題等により世界経済の不透明感が強まり、国内においても、消費マインドには足踏みが見られるなど先行きが懸念される状況が続きました。

このような中、当社グループは、昨年5月に公表した2020年度を最終年度とする新経営計画「NNI-120 II」に基づき、コア事業の収益基盤の再構築に注力すると同時に、買収事業を含めた自立的成長と新規戦略投資等の実行により、着実な利益成長を目指すとともに、積極的な株主還元に取り組んでおります。

当社グループ各事業におきましては、市場の活性化に向け積極的な新製品の上市・拡販に取り組むとともに、製粉事業では臨海大型工場への生産集約、加工食品事業ではグローバルな最適生産体制の構築等、国内外でコスト競争力を強化し、引き続き事業基盤強化に努めました。また、スポーツ協賛等を通じた当社のブランド価値向上の取組みや積極的な広告宣伝活動を展開しました。

これらの結果、売上高は主に原料小麦価格の低下を反映し、1,359億23百万円(前年同期比97.4%)となりましたが、利益面では、営業利益は51億84百万円(前年同期比103.6%)、経常利益は72億27百万円(前年同期比104.3%)、親会社株主に帰属する四半期純利益52億52百万円(前年同期比113.4%)と増益となりました。

**[平成29年3月期通期連結業績予想]**

我が国の経済は、不安定な海外情勢や急激な為替変動等による輸出企業の業績悪化影響など、先行きが懸念されております。当社グループを取り巻く環境につきましても、消費者の節約志向の継続等により、引き続き厳しいことが予想されます。このような環境下におきましても、当社グループは小麦粉をはじめとする安全・安心な「食」の安定供給という使命を果たしてまいります。また、新経営計画「NNI-120 II」で策定した戦略を着実に遂行し、各事業においてお客様視点に立った新製品の開発や広告宣伝活動等の販売促進施策及び生産性向上等のコスト削減に取り組むとともに、海外事業の拡大を推進してまいります。

さらに、昨年10月に大筋合意されたTPP(環太平洋経済連携協定)交渉は、当社関連業界への影響が想定されることから、引き続き動向を注視し、適切に対応してまいります。

平成29年3月期の業績見通しにつきましては、売上高は5,600億円(前期比100.6%)、営業利益は243億円(前期比102.2%)、経常利益は283億円(前期比100.7%)、親会社株主に帰属する当期純利益は187億円(前期比106.5%)と、当初予想を据え置いております。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向を40%以上とする新経営計画の基本方針のもと、当初の予想通り、前期より2円増額の1株当たり年間26円を予定しております。これにより、実質的に4期連続の増配となる予定であります。

以上